

アジアにおける外国銀行の展開 —タイと中国を中心に—

山形大学 山口昌樹

アジアの成長をいかにして取り込むのか。本報告は外国銀行のアジア進出というトピックを取り上げることによって論点提供の役割を果たしたい。アジアへの外国銀行の進出は1990年代後半から顕著であり、欧米系銀行に限らずアジア・豪州の銀行も積極的に現地銀行の買収・出資を進めてスーパーリージョナルバンクを形成し始めている。増大する収益機会を求めてアジア各国へ進出する外国銀行の動向を、対照的な状況にあるタイと中国に絞って紹介する。報告の前半では進出状況を概観し、後半で業務展開を比較する作業を通じて外国銀行の展開を検討する。

進出状況を外国銀行の資産シェアで見ると、2009年の数字ではタイが40%、中国が2%とその差は歴然である。中国への進出形態は現地法人を設立して店舗網を拡充する動きが主流である。例えば、拠点数トップのHSBCはすでに100を超える拠点を構え、サブブランチの新店を中心に進めてリテール拠点を構築している。一方、タイで顕著なのは現地銀行の買収による進出であり、2000年代後半に中規模行への出資・買収が相次いだことが外国銀行の資産シェアが高いことの要因である。また、フルブランチ形態で進出している外国銀行について資産規模を確認すると予想以上に大きいことも分かった。

業務展開で目を引くのは邦銀の特異性である。中国、タイの両国において邦銀は日系企業が中心にホールセールに特化して業務を進めている。一方、欧米系、アジア系銀行はともに個人向け商品を投入し、中小企業金融にも注力するという具合に業務の現地化を進めている。また、タイではフルブランチ形態では外国銀行はリテールをほとんどやっていないが、買収された現地銀行を通じてリテールを積極的に手掛けるという想定していない動向が観察された。この点については少し詳細に紹介したい。

リーマン・ショック、欧州債務危機による欧米系銀行の凋落を尻目に邦銀はプロジェクトファイナンス、貿易金融などのホールセール分野において海外での攻勢を強めている。邦銀の競合相手と考えられる銀行は欧米系銀行、アジア系銀行ともに現地市場を開拓する戦略を取り、個人顧客や中小企業を取り込むための金融商品・サービスを投入し、そのための体制を構築している。アジアの成長を取り込む経路は1つに限定されていない。しかし、メガバンクの戦略に死角は無いのだろうか、問題提起で報告を締めくくりたい。